

【一般 B】国語

問題の構成ならびに各問題の出題意図は以下の通りである。

第 1 問：

「客観性の落とし穴」村上 靖彦 著からの出題です。一人ひとりの主観的な感じ方が軽視され、弱い立ち位置にある人ほど社会規範に従順になってくことを説明する文章です。この文章の読解を通して、受験生の論理的・抽象的思考能力、語彙力等を問うています。スカラシップ試験、一般選抜Aの問題よりも基本的な問題となっています。

第 2 問：

「生きる言葉」俵 万智 著 からの出題です。この書籍は 2025 年の 4 月に出版されたものですので、入試問題に採られる作品としては比較的新しいものとなります。出題部分では「マルハラ」や「界限」という今日的なトピックを、ユーモアを交えた分かりやすい文体で評論しています。誰もが容易に情報発信者になれる今日、SNS への書き込み一つで他者を傷つけたり傷つけられたり、時には炎上を招いたりすることもあります。大学に入るにあたり、言葉の持つ力の大きさを再認識して欲しいという意味も含めての出題となっています。